

# 文化情報論・社会学コースのコンセプトと

## 新任教員に期待すること

### 1. 文化情報論・社会学コースの概要

文化情報論・社会学コースは、現代社会がかかえる諸課題に対して鋭敏な問題探求能力を持つとともに、みずから体系的手法によって諸問題を分析し、解決に向けて行動する実践能力を養成することを教育の目標としています。

現在、4人の教員によって構成されており、その専門分野は認知心理学、情報コミュニケーション学、環境社会学、数理社会学です(1名欠員)。

すべての教員は、それぞれの分野で調査や実験に基づいた研究を行っており、長野県をフィールドとした調査を心がけるとともに、地域連携・地域貢献にも力を入れています。情報リテラシーと調査リテラシーを身につけるための教育を目指しており、社会調査士の標準カリキュラムを満たす授業を開設しています。

### 2. コースの特徴

本コースには5つの研究室があります。共通しているのは、現代の社会にさまざまな「問題」を見出し、実証的な方法論(社会調査, 実験, 統計データ分析など)を用いて科学的に探究を行う点です。

この目標達成のため、所属の学生は、コースの概論科目や特論科目などを通して基本的な学術的知見や統計リテラシーなどを共通して学びます。さらに、コース内は、2年次以降で履修する重要な実習や資格取得方針などによって「文化情報論系3研究室」と「社会学系2研究室」にわかれており、さらに特色のある専門性を身につけていく構造になっています。

「文化情報論系」研究室では、学際領域の複数の研究室が協力して「情報」という共通の切り口から、実証的な研究手法でアプローチします。これらを通して、社会で広く通用する情報リテラシー能力、ICT活用を身につけることを目指します(初歩の情報処理技術者試験資格取得を推奨)。

「社会学系」研究室では、社会学の基礎的な理論と経験社会学の分析手法にかかわる教育を通して、地に足を据えた社会学的認識の方法を体得することを目指します。特に社会調査に関する体系的なカリキュラムを通して、社会調査のリテラシーや社会学的

認識能力、社会調査能力と経験的な分析能力を身につけ、現代社会の様々な場面で活躍する有為な人材を養成します(社会調査士資格取得を推奨)。

こうした専門性をふまえ、卒業研究やフィールド実習などは、原則としてそれぞれの系で実施しますが、必要に応じてコース内での指導を行い、またコース運営はすべての研究室が協力して実施します。

※ コースの研究教育について紹介する紹介動画を用意してあります。

<https://youtu.be/-UIOOLjTY0U> をご覧ください。

### 3. 新任教員に期待すること

信州大学の理念・目標、人文学部の理念・教育研究目標、および上記の文化情報論・社会学コースのコンセプトに共感し、その一員として、ご自身の研究領域・テーマを探求しながらも、他の教員の専門性と互いに補完・協働しあいながら、本学における教育研究に熱意を持って取り組んでいただける方を期待します。

具体的には、下記の要件を満たす方を望みます。

- ① 現行のスタッフと協働できる研究領域で、創造的で高度な研究を推進するとともに、学生教育に強い意欲と若々しい情熱をもつてのぞむことができる方。
- ② 経験的研究の分野での研究実績があり、最新の調査技法・分析技法に通じており、計量的データを中心に、学生にデータの収集・分析・表現の指導ができる方。
- ③ 地域貢献に理解と関心があり、大学外の地域社会や自治体と連携した調査プロジェクトや、それに関わる調査実習の指導を進めていくことができる方。
- ④ 情報リテラシーに造詣が深く、ICT 活用や教育に知識と熱意がある方。

※信州大学の理念・目標、人文学部の理念・教育研究目標は以下の URL で御覧ください。

・信州大学の理念・目標

<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/philosophy/mission/>

・人文学部の理念・教育研究目標

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/guidance/aim.php>

以上